

ゆうあい

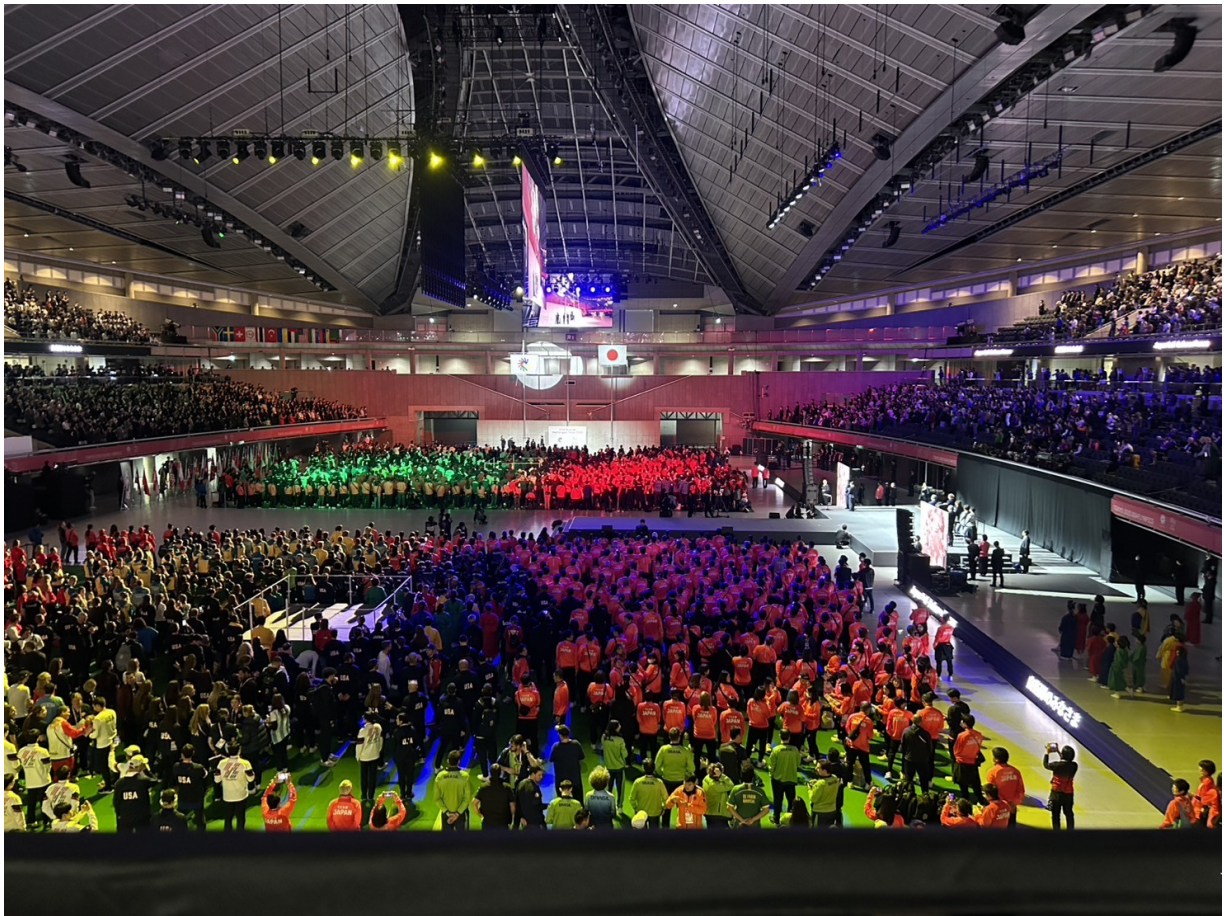


題字 初代総裁三笠宮崇仁親王殿下

共に生きる

2026. 1. 1 No.62

社会福祉法人 友愛十字会



デフリンピック閉会式

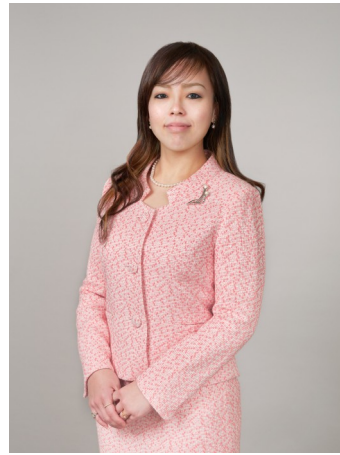
主な記事

- 新年の挨拶 瑤子女王殿下
- 就任のご挨拶 理事長 八神 敦雄
- 退任のご挨拶 前理事長 蒲原 基道
- 就任のご挨拶 港区立障害保健福祉センター センター長 佐藤 秀崇
..... 友愛ホーム園長 品川 文男
- 創立記念日/永年勤続者表彰 勤続30年表彰
..... 友愛デイサービスセンター副センター長 小泉 貴宏
..... 東京聴覚障害者支援センター 部長 平野 基浩
勤続20年表彰 木村浩二 鈴木秀子 鈴木健太 安部素行
- 事例研究発表 理事長賞 砧ホーム 友愛荘
- 男女共同参画委員会
- 友愛荘秋マルシェ開催の報告
- デフリンピックへのサポートとブース出展
- 善意のかずかず

2026年を迎えて

社会福祉法人友愛十字会

総裁 瑤子女王殿下



みなさま、ごきげんよう。

社会福祉法人友愛十字会の総裁をさせて頂いております寛仁親王の次女の瑤子でございます。

2026年を迎えまして、毎年恒例となっております、新年のご挨拶をさせて頂きます。
【無事に、自分が迎えているのか心配ではありますが。】

今までですと、またこの時期

がやってきてしまったなどと、ネガティブな言葉を書かせて頂いていたかと思いますが、もう完全にそう思うことはやめまして、変わらず不得意であろうが、学校の課題のような？必ずやり遂げなくてはいけないものとして、今回は取り組んでおります。

昨年は、11月15日に父の母である、私にとっては祖母の一周忌があったのですが、なんとなく今まで過ごしてきたなかで、一年が一番早く感じた年だったかもしれないなと思っております。特に宮中の行事が多くあったわけでもなく、自分の活動が特段増えたわけでもなかったように思うのですが、年齢を重ねると、どんどんと早く感じるものなのでしょうか？

昨年は、夏の暑さが一昨年にも増してあったように思い、又日本には【四季】という言葉があります、もう【二季】になってしまったのではないかと、春と秋を感じられる時間が短かったように感じ

ています。例えば、たつぷりと桜を見るというよりは、もうこんなに早く桜は散ってしまうものだったかな？と思いましたが、冬になる前の様々な色が混在する紅葉の景色を堪能するほど見たというよりは、日々の暑さに心が折れつつも、もうすぐ涼しくなるのかな？と頑張って耐えていたら、マフラーやコートが手放せなくなってしまいうくらい寒いと感じていたなど、振り返ると思います。

まだ私が小さかった頃は、東京にいただけでは肌が日焼けをするなんてことはなかったように思います、昨年は、しっかりと日焼けの跡が残ってしまいました。世の中では、年齢を重ねれば重ねるだけ、ちゃんとお手入れをしないと、シミになると言われておりますので、気をつけなければなりません。

みなさまは、昨年は、いかがお過ごしでしたでしょうか？有意義に過ごされたり、自分たちらしく、やりたいことが出来た

り、新しい経験をするなど、ポジティブな出来事が多くあったら良いなあと思っております。勿論、世の中？人生というものは、楽しいことばかりで埋め尽くされているわけではないので、嫌なことや腹立たしいこと、悔しいことが多くあった方々もいらっしゃると思いますので、そういう想いがある方々も、きつと今年が良いことや、楽しいと思えることがあると信じて、この新しい一年を過ごしてまいりましょう。

私自身、どう過ごしているかなど、この文章を書いている頃は、まだ定まっておらず、何事にも悔いは残さず日々を過ごしていくということだけは決めております。

みなさまにとって、少しでも笑顔になれる一年でありますように。

退任のご挨拶
前理事長 蒲原 基道



6年5カ月にわたり、友愛十字会の理事長をつとめさせていただきましたが、昨年12月1日をもちまして、理事長の職を辞することになりました。この間、当法人の評議員、理事の皆さま、地域の関係者の方々、法人職員の皆さんには、様々な面で、法人や施設の円滑な運営にご支援、ご協力いただき、本当にありがとうございます。心から、御礼申し上げます。
在任中の大きな出来事は、コロナ禍でした。法人の施設でコ

ロナ感染が生じたときに、当該入所者の療養環境の保全是当然のこと、他の利用者への感染防止や行政当局への報告などに、職員の皆さんに取り組んでもらったことが思い出されます。職員の皆さんに改めて感謝申し上げます。

他方で、新たな事業展開に取り組みました。港区の指定管理として児童発達支援センター「ぽお」を開所したことです。多くの若い職員の力を結集して、港区全体を視野にいれて精力的に事業展開しています。また、町田市の友愛荘については移転改築することができました。新施設での事業開始当初は利用率が上がらず心配しましたが、その後、様々な取り組みにより、安定的な運営ができるようになっていきます。さらに、板橋区の聴覚障害者支援センターの改築に取りかかっています。

この聴覚センターについては、建築費高騰などを背景に入札手続きが遅れ、今年の完成予定となりましたが、新施設というハードも大事だがそこで何をやるかがより重要だという意識から、就労支援事業の中で新たにカフェを行うなど今後の事業内容について職員みんなで考えてもらっています。

さらに、将来に向けては、法人の中長期計画を策定し、その実施に向けて取り組んできていきます。この中では、特に世田谷地域での新たなニーズに対応すべく、例えば、医療的ケア児に対する支援の取り組みについて検討することとしています。今後、関係職員で知恵を出しながら検討いただければ、と思っております。その際には、法人内の障害児関係の事業所のノウハウや人的資源の活用も重要な視点

です。また、経営状態が必ずしも良くなかった砦デイサービスセンターについては、計画の中で厳しい評価がされましたが、その後、事業所職員の精力的な取り組みにより、経営改善が図られつつあり、今後この動きが継続することを期待しております。

ご存じの通り、当法人は、「共に生きる」を法人理念としています。この「理念」を各施設の事業展開や法人の運営など、さまざまな「実践」につなげていくことが大事であります。後任の八神新理事長とともに役員一体となつて取り組んでいけば、必ずや結果が出てくると確信しております。法人のさらなる発展を心から祈念して、私の退任の挨拶とさせていただきます。

就任のご挨拶
港区立障害保健福祉センター
センター長 佐藤 秀崇



令和7年7月1日付けで港区立障害保健福祉センターに配属となりました佐藤と申します。

新たな年をお迎えのことと存じますが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめに、平素より当センターの運営に関しまして、御利用者・御家族をはじめ、地域の皆様、港区役所等の行政機関や関係団体の皆様、その他の多くの方々から格別の御理解、御支援、そして御協力を賜っており、ますます深く感謝申し上げます。

就任にあたっての抱負ですが、障害児・者の方が住み慣れた地域等で自分らしく安心して自立した日常生活を営むための一翼を担うことができるよう、次の実践に特に留意の上、適時

適切に当センターの運営に取り組んでまいります。

① 当事者目線を常に忘れず、御利用者・御家族・地域の声に真摯に耳を傾けること

② 常にアンテナを高くして当センターを取り巻く環境変化を的確に捉え、区内ニーズに即した事業のあり方を不断に適宜検討すること

また、当センターは利用増加の見込みや障害特性の変化等を踏まえ、事業の一部移転や拡充等を予定しております。これらの準備につきましても、万全を期して適切に対応してまいります所存です。

纏々申し上げましたが、創立七十五周年を迎えた歴史ある当法人の施設長の職を務めさせていただくことになりましたので、当法人の理念「共に生きる」を常に念頭に置き、役割を見据えながら、全ての方に感謝する気持ちを忘れずに職員一同とともに誠心誠意努めてまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして実り多き一年となりますよう祈念申し上げますとともに、引き続きの御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。就任の御挨拶といたします。

就任のご挨拶
友愛ホーム園長 品川 文男
(法人本部総務部長併任)



新年あけましておめでとうございませう。

令和7年7月1日付で友愛ホームの園長（法人本部総務部長併任）を拝命いたしました品川と申します。

日ごろから当施設の運営に関しまして、温かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

前職では、頸髄損傷者の自立訓練と視覚障害者の就労移行支援を行う施設に勤務しておりました

が、このたびご縁をいただき、当法人の一員として勤務させていただきますこととなりました。

友愛ホームは、環境上や経済上の理由により自宅での生活が困難な高齢者を支える養護老人ホームとして、社会的に重要な役割を担っています。今後も利用者が安心して穏やかに過ごせるよう、職員一丸となつて精一杯努めて参ります。

また、法人本部総務部では、施設職員の人事・給与等を預かる重要な業務を担っています。継続的かつ安定的な法人運営が図られるよう、緊張感をもって取り組んで参ります。

今後とも、地域に根ざし愛される友愛十字会の歴史と伝統を大切にしながら精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

創立記念日／永年勤続者表彰

【勤続三十年表彰】

友愛デイサービスセンター

副センター長 小泉貴宏



勤続30年を表彰していただき、ありがとうございます。平成7年4月の入職から様々なことがございましたが、振り返ってみればあつという間というのが率直な感想です。

採用時に配属となった友愛ホームを始め、法人本部（総務部）、港区立障害保健福祉センターの地域活動支援センター、砧デイサービスセンター、砧介護保険サービスと5つの部署を経て、現在、友愛デイサービスセンターにお世話になっていきます。

友愛デイサービスセンターでは

これまで経験のなかった重度障害をお持ちの方々の支援に携わり、今更ですが多くの学びを得ながら毎日を過ごしております。言葉でのコミュニケーションが難しいご利用者がほとんどではあります。皆さんの笑顔に触れられる瞬間を大切に今後も従事して参ります。

私が今日までやってくる事ができたのは、ひとえに上司、諸先輩方、そして、これまで共に業務に当たってきた同僚のおかげであり、皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

また現在、地域連携委員の一員として活動している中で、この地域には地域福祉の向上のために尽力されている方々が本場に多くいることを知り、当法人も、そして私自身もそういった方々に生かされていることを実感しております。

微力ながらも砧町を始めとしたこの地域の福祉向上のために、貢献できるように今後も注力していく所存です。

東京聴覚障害者支援センター

部長 平野 基浩



この度、勤続三十年という人生の大きな節目を迎えることができました。三十年の長きにわたり、温かいご指導、ご支援を賜りました。すべての方々の存在が、福祉に対するゆるぎない礎を築いていただいたこと、心より感謝申し上げます。

思えば、昭和の終わりに一支援員として入職して以来、早いもので三十年の月日が流れました。友愛十字会が七十五周年、そして長年の勤務先である東京聴覚障害者支援センターが六十周年という長い歴史の中で、東京都ろうあ者更生寮（現東京聴覚障害者支援センター）の支援員として第一歩を踏み出しました。

入職より、利用者様の支援に必死に取り組んでおりましたが、施

設が時代の変遷と共に老朽化していく様子も肌で感じておりました。そんな中、都立施設改革に伴う民間移譲施設改築の話が持ち上がり、聴覚センターの未来を左右する施設の建て替えに向けて、中心メンバーとして関わる機会をいただきました。

都度変更される設計図を前に、理想の支援の形を追い求め、幾度となく議論を重ねた日々は、通常の業務とは異なる重責を伴うものでしたが、福祉施設としては五十年に一度あるかないかの一大事業です。それ以上に大きなやりがいと貴重な知見を与えてくれました。

新しい施設でのスタートは、勤続三十年目にして迎える、新たな「挑戦」でもあります。これまでの経験と、施設の建て替えて学んだ多角的な視点を活かし、今後は福祉の質のさらなる向上、そして後進の指導・育成に、全力を尽くす所存です。

今後とも、皆様のより一層のご理解とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

【勤続二十年表彰】

友愛デイサービスセンター長
木村 浩二



この度は、永年勤続20年の表彰を賜り、厚くお礼申し上げます。やりがいのある仕事に出

会い、今日まで勤められましたのも、皆様のお陰であり心より感謝申し上げます。

入職当初は職業指導員として、その後は生活支援員として、障害のある多くのご利用者に関わりながら、支援者としてのあるべき姿を学ばせていただきました。また、組織づくりにおきましては、法人理念に掲げる「相手の立場に立ち、その思いに共感する」という実践指針を涵養させることに思いを巡らせてまいりました。私たちは職員が戮力協心してご利用者を支えています。だからこそ「相手の立場に立つて共に働く仲間を大切にできること」は、組織の一員として何にもまして求められる資質であり、自他共愛の精神にも通ずるこの感性が組織に根付いてきたことを感慨深く感じております。

天職と思えるこの仕事を続けられたことの幸せと感謝の気持ちをかみしめ、これからもご利用者やそのご家族、社会の中で生きづらさを感じている人たちの支援に力を尽くしてまいります。

特別養護老人ホーム友愛荘
介護職員 鈴木 秀子



この度は20周年の永年勤続表彰をいただき誠にありがとうございます。

勤職員として友愛荘に入職し毎日忙しく働いていましたが気づけば20年も経っていました。

友愛荘はアットホームな環境で気の置けない仲間にも恵まれて困ったことがあつたらすぐに手を差し伸べてくれます。利用者さんも「何かあつたら手伝うからね」と手助けして下さいたりと本当に良い方々に支えられここまでやってこられたのだと感じます。

これからも友愛荘の一員として楽しく笑顔の溢れる環境を作っていきたいと思えます。



特別養護老人ホーム友愛荘
園長 鈴木 健太



「頼まれたことは断らない」を信条に
法人から表彰をいただくのは勤続10年以來のことです、その時

は、砧ホームの介護部長でした。10年前はおろか20年前に、今日の自分自身のことなど想像すらしたことがありませんでしたが、「頼まれたことは断らない」を信条に、ライフワークバランスという言葉を捨てて、働いて、働いて、働いて、働いてまいりました。それが良かったのかどうかは分かりませんが、この度、勤続20年表彰をいただきました。職業人生において一定の節目を迎えることができましたことに、これまでご支援ご関係くださいました皆様に、深く御礼申し上げます。

昭和45年生まれの私は、気が付けば満55歳を迎えていました。いくつになつても10年先のことは想像が付きませんが、暫くは同じ信念を胸に、福祉・介護業界の発展に邁進する所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

世田谷更生館
職業指導員 安部 素行

勤続の表彰を賜り、誠にありがとうございます。家族をはじめ、多くの方々の支えがあつてこそその歩みであり、心より感謝申し上げます。

振り返れば、福祉には関心が薄かった私ですが、あるご縁から「ヘルパー一級」と「福祉住環境コーディネーター二級」を取得し、これが転機となつて「友愛十字会」へ入職することといたしました。

この間、多くの利用者の皆様と出会い、支援や指導を通じてどれほど喜んでいただけたかは分かりませんが、私自身は多くを学び成長させていただきました。また、公共の場で困つていそうな方を見かけた際には、相手の様子を確認しながらお声掛けし、必要に応じてお手伝いできるようにもなりました。

今後も「共に生きる」姿勢を大切に、「規律、結束、品位、尊重、情熱」を胸に、人生を歩んでまいりたいと思えます。

事例研究発表研修

理事長賞

【発表部門】

主題…介護現場の持続可能性を高める、補助金活用型テクノロジー導入戦略

発表者…砧ホーム(三浦・松崎)

「介護現場の持続可能性を高める、補助金活用型テクノロジー導入戦略」をテーマに発表し、理事長賞を頂戴いたしました。補助金を活用した「ICT機器や介護ロボット導入の取り組みが評価され、大変光栄に感じております。これまでの努力が実を結び、職員にとっても大きな励みとなりました。

さらに、ありがたいことに賞金を頂くことができました。日頃より利用者様のために尽力する職員のリフレッシュのために有効活用し、心身を整える機会

としたいと考えております。リフレッシュを通じてチーム力を高め、より質の高いケアを提供できるよう努めてまいります。

今後も利用者様に寄り添いながら、働きやすく持続可能な職場づくりに力を注ぎ、地域に信頼される施設を目指して歩みを進めてまいります。



【パネル部門】

友愛荘 板垣 絢子

今年度から新たに導入された「パネル発表」による事例研究発表において、このたび理事長賞を受賞することができました。初めての形式ということもあり、伝えたい内容をいかに視覚的にまとめるか試行錯誤を重ねましたが、友愛荘の理念「あなたと共に」を軸に、「3つの愛」「学び愛」、「讚え愛」、「成長し愛」の取り組みをわかりやすく表現できるよう工夫しました。

「学び愛」では、法定研修に加えて、各会議・委員会からの提案をもとにした独自の研修を開催し、より専門性を高める学びの場を整えました。職員からの意見を取り入れたことで、実践に生かしやすい内容となりました。

「讚え愛」では、職員同士の敬意と感謝を深めるために交流会を実施し、現場で生まれた温かい瞬間を「にやりほっと」として共有しました。年間を通して集められた報告の中から、最も心に残るものを表彰する「The Best of にやりほっと」を実施し、介護や職場の魅力を再確認する機会となりました。

「成長し愛」では、受講した職員

からヒヤリングし、主体的な学びを後押ししました。アクティブ福祉館東京には10名の職員が参加し、他施設の取り組みから多くの刺激を受けることができました。

今回の受賞は、日頃の取り組みを形にしたからこそ得られた成果だと思えます。これからも『あなたと共に』の理念を大切に、友愛荘職員一同が心をひとつにして、利用者の皆様お一人おひとりに寄り添いながら、より質の高いサービスと安心して施設生活を送れる環境の提供に努めてまいります。



男女共同参画委員会

「子育てと仕事の両立」

男女共同参画委員会は、女性も男性も働きやすい、子育てや介護などと両立できる職場環境づくりのために活動しています。

今回は、産休・育休を経て、2人のお子さんを育てている職員から、子育てと仕事の両立についてコメントを寄せてもらいました。

港区立障害保健福祉センター

地域活動支援センター

栄養士 木下菜月

復職から4年、育児と仕事の両立で驚いたことは、子どもの成長にもない生活スタイルが目まぐるしく変化することです。「安定」がモットーの私にとって2年として同じように対応できない生活は、仕事や子どもとの向き合い方、効率化など、もう1年繰り返し出

来ればもつと上手く出来るのに！と後悔することばかりです。しかし、子ども達の笑顔が毎日見られること、仕事も家庭も周囲に頼らせてもらいながら継続できていることは本当に幸せだなと実感しています。

港区立障害保健福祉センター

工房アミ 山本 菜摘

約3年の産休・育休を経て、2022年、長男が3歳3か月、次男が1歳9か月の時に復職をしました。兄弟の年が近いので二人で遊ぶことが多く、家事をしていて私が一緒に遊べない時など助かる場面が多々あります。ですが疲れている時には、自分を甘やかす日を取り入れるようにしました。夕飯は楽をして作らない！そんなちよつとしたことが心の余裕に繋がるので、工夫しながらこれからの仕事との両立を図っていききたいと思います。

友愛荘 秋マルシェ開催の報告

令和7年10月8日(土)、施設の中庭と地域交流スペースを開放し、「友愛荘秋マルシェ」を開催しました。友愛荘では今年度から、地域福祉に関する事項を統括して検討する場として地域連携検討会議を発足させ、秋マルシェもこの会議の中で検討を重ねてきました。

中庭に法人内栄養士が各拠点から結集し、小松菜のキーマカレーとラッシーを販売した他、ワッフル販売、スープボールすくいなど令和6年の50周年記念祭には無かった企画も実施しました。特に、スタンプラリーは子ども達に大人気でした。また、地域交流スペースでは学生による楽器の演奏とシンガーソングライターによる歌の披露、入居者作品の展示を催し、皆さんの方々に鑑賞いただきました。



さらには、一昨年に引き続き町内会有志の方や町市内の就労支援事業所にも出店していただきました。これらのご協力があった実施することができ、地域とのつながりの大切さを実感しています。今後も「開かれたつながりのある施設」を継続すべく活動してまいります。

デフリンピックでの1日
港区立児童発達支援センター
非常勤看護師 木村裕子

11月15日(土)～26日

(水)、きこえない・きこえない人のための国際総合スポーツ競技大会「デフリンピック」が日本で初めて開催されました。大会では、世界中のデフアスリートが東京(一部競技を除く)に集結し、連日、熱戦が繰り広げられました。

会場では様々な企業や団体の出展が行われ、友愛十字会は、卓球の競技会場である東京体育館のブースで、動画とパンフレットによる法人や事業所の紹介と、みなとワークアクティのお菓子の販売を行いました。動画では各事業所の利用者様がいきいきと映し出され、観客や関係者の方々が注目して下さいました。また、アクティのお菓子は大変好評で、予想以上の売れ行き

で完売しました。東京聴覚障害者支援センターの職員さんは手話で、私は身振り笑顔で対応しました。ブースには高齢者や障害者支援に興味のある若者や、介護中の女性も立ち寄って下さいました。かつて聴覚障害者の支援に関わっていらした男性は「大変なお仕事ですね。昔は経営が難しかった。頑張ってください」と労ってくださいました。

休憩時間にはユニバーサルコミュニケーション技術の最先端に触れることができ、国籍や障害などにかかわらず、分け隔てなくコミュニケーションを取ることでできる技術が、急速に進歩していることに驚きました。そして手話はきこえない方々のかけがえのない言語であると感じました。デフリンピックに先立ち、昨年6月には「手話言語法」が制定されました。手話が言語として尊重さ

れ、手話の使用や習得や通訳が権利として保障され、広く国民に周知されることを期待します。

改めまして、貴重な体験と学びの機会をいただき、心より感謝申し上げます。「共に生きる」には、お互いを知り、認め合うことが大切だと思います。この日の体験から学んだことを今後の業務や、大好きなスポーツにつなげていきたいと思えます。

デフリンピックに参加して
港区立児童発達支援センター
作業療法士 古澤 拓海

私がデフリンピックに参加したいと思ったきっかけは、祖父母が聴覚障害者で、聴覚に障害のある方にかつたことや、少しではありませんが手話ができるので、手話を使ってコミュニケーションを取ればと感じた

からです。

当日は、準備の段階から海外的選手がアクティのお菓子に興味を持ってくださり、販売を開始して一時間余りで完売しました。お客様の中には港区在住の方もおり、「港区で見かけたら買います」と言っておいたり、購入後「おいしかった」と声をかけてくださったりと、温かい言葉をいただきました。

販売の間には卓球団体準決勝を応援する機会もいただき、世界レベルの試合を観戦し、ハンドサインという特有の方法による応援を経験することができました。また、この機会に法人の他の事業を知ることができ、地域に根差した法人であることを実感しました。今後も法人の理念のように、他の事業の職員とつながり、ともに地域に貢献しなければと肌で感じた一日でした。

東京2025デフリンピック
でのブース出展
港区立障害保健福祉センター
みなとワークアクティ
施設長 柴田 泰礼

昨年の11月15日から26日の12日間、東京2025デフリンピックが開催されました。

当法人は、社会の中で聞こえない・聞こえにくい人たちが安心して過ごすことのできる共生社会の実現にさらに寄与していきたいという思いのもと、デフリンピックの協賛企業として、東京体育館（卓球競技、閉会式）にてブース出展を行いました。



東京体育館卓球競技



ブース内では、法人のPRとともに当事業所で生産した焼き菓子販売のほか、大会運営のボランティアとして法人職員が参加しました。

販売する焼き菓子には、①デフリンピックの象徴である大会エンブレムと②事業所のキャラクター「みなのはし」を大会エンブレムの原作者である、東京聴覚障害者支援センター生活支援員の多田伊吹氏にアレンジをしていただき、デフリンピック版の2種類をシールとして貼り、スペシャルバージョンとしました。

ブースに足を運んでいただいたお客様は、一般の観覧者をはじめ、大会アシリートやスタッフなど、障害の有無にかかわらず、たくさんの方にお買い求めいただきました。気になる販売結果は、合計7日間、連

日完売（計750個）で大盛況となりました。お買い求めいただきました皆様には、心より感謝申し上げます。

なお、今回の販売売上につきましては、当事業所の利用者へ、工賃として支払われます。



デフリンピックバージョンの焼き菓子
焼き菓子に関するお問い合わせやご注文につきましては
電話03-5439-8057までご連絡ください。

善意のかずかず

次の方々から利用者及び施設に対しましてご奉仕等を賜り、また、善意の金品のご寄贈を頂きましたことに対して、心より御礼申し上げます。
(令和7年7月1日〜令和7年11月30日)

奉仕活動

○世田谷更生館

秋山 一代
伊藤 幸子

○友愛園

慶応義塾大学ライイチウス会
友愛デイサービス

○友愛荘

河合 倅之介
清水 良子

菅野 晴美
田巻 いづみ

花田 実優
船山 直子

舞弥 芳恵
宮下 芳恵

相模女子大学
NUTRI

○港区立障害保健福祉センター

池浦 順子
一山 洋子

伊藤 恵一
岩崎 智子

牛久 慎哉
岡田 藤子

小林 和子
定方 義和

武田 敦和
竹之内 公恵

長園 里美
村井 和枝

(敬称略)

寄付金

○法人本部

相原 トミ子
秋山 由美子

足立 義詮
石井 盛利

遠藤 修
川上 敬子

木村 忠敬
濱口 武

松永 瑞静
松本 由理

矢藤 広進
大蔵東部町会

砧町町会
コルカタ

成城消防団第五分団
世田谷砧郵便局

世田谷区障害福祉部障害者地域生活課
世田谷区立砧工房

祖師谷商店街振興組合
ネオ・ハルト株式会社

法人格砧町自治会
山野小学校PTA

有限会社新井電気工業所
有限会社カインドサービス

悠遊踊ろう会
レイアロハフラスタジオ

友愛荘
理容ミツキ

○港区立障害保健福祉センター

芝金杉町会

(敬称略)

寄付物品

○本部

矢藤 広道
有限会社カインドサービス

さわやか信用金庫
○コーポ友愛

株式会社ユメックス
○友愛ホーム

中澤 綾
ドレーゲルジャパン株式会社

○砧ホーム
日向 弘子

砧愛の園
○砧デイサービスセンター

田名 夢子
○砧介護保険サービス

田名 夢子
○東京聴覚障害者支援センター

板橋区社会福祉法人施設等連絡会

(敬称略)

職員異動

(令和7年7月1日)
(令和7年11月30日)

○採用

友愛ホーム

園長

品川

文男

○配置換

港区立障害保健福祉センター

センター長

佐藤

秀崇

表紙写真…東京聴覚障害者支援センター
村松 徳治

編集後記

東京2025デフリンピックに、法人PR及びみなとワークアクティの焼き菓子販売のため、東京体育館へ法人ブース担当スタッフとして参加してまいりました。販売の合間に競技(卓球)を観戦しましたが、選手の方のプレーや観覧席から応援されている方々を直接感じて一人で盛り上がっていました。手話のできない私と会話にならないことも笑顔で接して下さった購入者の方々がとても印象的で、百周年、そして日本で初めての開催という場に関われたことは貴重な経験となりました。
令和8年が良い年となりますように。

《第六十三号は、令和八年七月三十一日発行予定です。》

ゆうあい編集委員会 副委員長

砧ホーム 施設長 武井 安浩

ゆうあい 第六十二号

令和八年一月一日

発行 社会福祉法人友愛十字会
発行人 酒井 健治
所在地 東京都世田谷区
電話(〇三)三四一六一三二六四
電話(〇三)三四一六一三二六四

http://www.yuai.or.jp